夢をかなえたチャイルド
My Dreams Come True

フィリピン

都市部の経済発展の一方、多くの地域がいまだ厳しい貧困の中にある。5 歳未満で亡くなる子どもは 1000 人あたり 71 人と多く（日本は 3 人）、145 万人以上の子どもたちが初等教育の機会がない。

元チャイルドのレザミ先生（23 歳）

貧しさを乗り越え学校の先生に

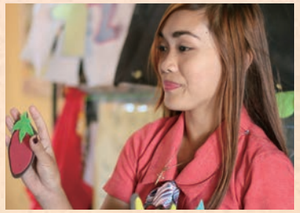
「ワールド・ビジョンが村に来てくれて、すべてが変わりました」。こう話してくれたのは、かつてチャイルド・スポンサーシップの支援を受け、夢をかなえて学校の先生になったレザミさんです。フィリピン、ミンダナオ島に生まれたレザミさん。お父さんはココナッツ農家で、小さなお店も経営していましたが、家族は貧しく、レザミさんも店番をして家族を支えました。友達と遊ぶ時間もなく、「子ども時代はなかった」と言います。それでも勉強がしたかったレザミさんは、「店番をしながら、売上を計算したりして数学の勉強をしていたの」と言います。

教育の力で子どもたちに希望を

「ワールド・ビジョンが村に来てくれて、すべてが変わりました。学用品などを支給してくれ、私にも可能性があるということを教えてくれました」。優秀な成績で学校を卒業し、大学にも進学したレザミさんは、貧しさの中将来を諦めてしまう子どもたちの力になりたいと、地元の公立小学校の教師となりました。

「私の村では、多くの親が教育を受けられずに育ち、懸命に働いてもわずかな収入しか得られません。そのため、子どもたちも学校に通えないという悪循環です。貧困の連鎖を断ち切り、子どもたちに夢をかなえてほしい。教育にはその力がある、と私は信じています」。そう力強く語るレザミさん。小学校が休みの日も保護者の家を訪ね歩き、厳しい家庭環境の子も学校に通えるよう話をします。

レザミさんのクラスの子どもたち



今の仕事を、心から誇りに思っています

「すべての子どもたちが、神様から贈られた才能があるということに気づいてほしい。教育の力で子どもたちの人生に変化を起こせる今の仕事を、心から誇りに思っています」。かつての自分と同じ境遇の子どもたちのため、レザミさんは今日も奮闘しています。

今、アジアの支援地域でチャイルド・スポンサーを待っているチャイルドは7500人(5/9現在)。チャイルド・スポンサーシップのお申込み、また、チャイルドもう一人分のご支援をいただける方は、お電話ください。

0120-465-009

World Vision News No. 185
2016年 6月発行　ワールド・ビジョン ニュース
特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン
〒164-0012 東京都中野区本町 1-32-2ハーモニータワー 3F
TEL 03-5334-5351(平日9:30～17:00) FAX 03-5334-5359
dservice@worldvision.or.jp
www.worldvision.jp

World Vision News

No. 185 2016年 6月 ワールド・ビジョン ニュース

World Vision
この子を救う。未来を救う。

特集

なぜチャイルド・スポンサーシップ？

成果が残る支援の仕組み

一緒に知ろう！ 世界で生きる子どもたちのこと

特　集

なぜ チャイルド・スポンサーシップ？

成果が残る支援の仕組み

見渡す限りの田んぼの真ん中で、笑顔いっぱいなのはラオスのロイちゃん（8 歳）。支援で受け取った米の種子が美しく育っています。

チャイルド・スポンサーシップは、例えるなら、収穫された米を配るのではなく、米を育て、収穫できる力をつけるために支援するプログラム。支援終了後も、成果が残ることを目指し、地域の人々とともに、長い期間をかけて実施しています。

＊支援プログラムの実施期間は 10 ～ 15 年ですが、チャイルド・スポンサーの方々の支援期間は任意で決めていただけます。

長い支援を支える計画

チャイルド・スポンサーシップの支援期間は、準備期とそれに続く 3 段階に分かれ、地域の必要と各段階の目的に応じた活動を行います。第 1 ～ 3 期それぞれ 5 年間を標準としてプロジェクトの実施、評価を行い、そこから得られた経験や知見を次の 5 年間の計画策定に活かしています。

準備期
支援ニーズ調査、地域住民・行政関係者との対話
事業計画策定

▼

第 1 期
チャイルドの登録・住民組織づくり
施設建設・機材供与
保健衛生・栄養・教育・収入向上等の研修、啓発

▼

第 2 期
第 1 期の成果を受けて、活動の継続
新たな住民組織づくりや育成、主体性の醸成
地域レベルのアドボカシー (行政への働きかけ)

▼

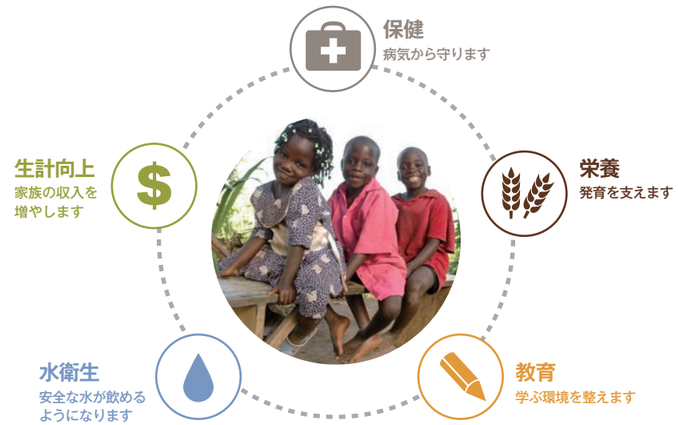
第 3 期（移行期）
持続的発展に向けた体制づくり
住民組織の運営機能の強化
地方行政や現地 NGO との連携強化

▼

支援卒業
ワールド・ビジョンが撤退しても支援の成果が残る仕組みが整い、地域の人々へ必要な活動が引き継がれます

いろいろな分野の支援で相乗効果

チャイルド・スポンサーシップは、一つの支援地域で、保健、水衛生、栄養、教育、生計向上、という異なる分野の支援を同時に進めることで相乗効果をあげます。例えば、子どもが学校に行けない理由は、病気、水汲みに時間が割かれている、栄養状態が悪い、保護者の収入が低い等、様々な要因が絡み合っていることが多いため、学校建設のような教育支援だけを行えば問題が解決するとは限らないからです。



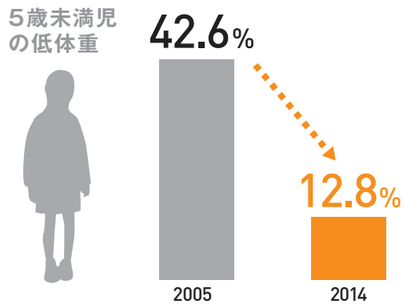
child sponsorship

チャイルド・スポンサーシップ 長い支援から生まれる成果

子どもたちの栄養状態が改善されました！

ベトナム Vietnam

2004 年に支援が始まったベトナムのバンエン地域では、子どもたちの栄養状態に改善が見られます。5 歳未満の低体重児の割合は、支援開始時の調査では 42.6%でしたが、支援開始から約10年を経た 2014 年には 12.8%まで改善しました。成功の鍵はどこにあるのでしょうか。



母親たちが学び合う「栄養クラブ」

バンエン地域では妊産婦、5 歳未満の子どもがいる母親と保護者を対象に栄養クラブを結成して活動しています。月 1 回のミーティングでは保健センターのスタッフによる指導で栄養価の高い食事の作り方を学びます。調理のデモンストレーションでは、地域で手に入る食材を使い、日々の生活の中でちょっと工夫すれば改善することをお互いに確認し合い、学び合います。なぜ、家族で栄養ある食事を準備できないかと批判するのではなく、同じ厳しい環境の中での上手な工夫の例、例えば、栄養ある野菜の皮や葉っぱを上手に使うことや、子どもたちにおやつを上手に与えること等を伝え合って、よい例の実践を増やしています。

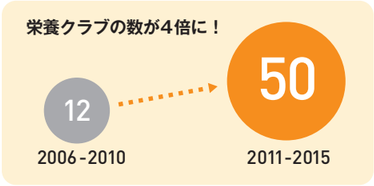
研修で調理した食事を子どもに食べさせる栄養クラブのお母さんたち

教育 x 生計向上(農業) x保健支援 ＝ 相乗効果！

栄養クラブの活動が軌道に乗る間に、同時に進められていたのが、就学前教育での給食や身体測定の実施、改良農法の指導による生計向上支援と、保健衛生活動です。異なる分野の活動が互いに相乗効果を生んで、栄養改善につながりました。

じっくり育てる住民主体の活動

活動開始から 10 年で、バンエン地域の栄養クラブの数は 4 倍以上になりました。これまで、自分たちで組織を作ったり、運営したりしたことがない人々がその必要性を納得し、行動していくようになるには時間が必要です。また、電話やメールも使えず、ミーティングの開催等も、直接メンバーの家に出向いて連絡することも珍しくありません。すべてのプロセスに、日本よりもはるかに時間がかかりますが、一歩ずつ進んできた成果が、今、実を結びつつあります。



収入向上のために始めた養鶏。現在 120 羽ほどを管理している

参加した母親のコメント

生計向上の活動に参加して養鶏と養豚を始め、年間で 2400 万ドン (1000 米ドル) 以上収入が増え、家族の食費を増やすことができました。単に収入が増えただけでなく、心の目が開き、将来に希望が持てるようになりました。

東京大学と連携した調査が進行中！

ルワンダ Rwanda

ルワンダのグウィザ地域では東京大学大学院、松田浩敬特任准教授のチームにより、チャイルド・スポンサーシップによる栄養改善支援に関する調査が進んでいます。専門家による知見を得て、より質の高い事業を実施できることを目指しています。

調査のために行った身体測定の様子

ルワンダの支援地域にて

東京大学大学院　新領域創成科学研究科
サステイナビリティ学グローバルリーダー養成大学院プログラム
松田 浩敬 特任准教授

本当の栄養改善は、どのようなものを食べているのかはもちろん、なぜそれを食べるのか、気候･風土･歴史･文化的背景や農業生産等を理解しなければ達成できません。そのためには地域住民との協働が必須で、チャイルド・スポンサーシップによる支援は意義ある実践と受け止めています。地域住民の伝統的な知識に、我々、外部者の知識を組み合わせ、長期的に多様な分野の人間が関わることで栄養改善へと結びつけることができるのです。

特集

一緒に知ろう！ 世界で生きる子どもたちのこと

グローバル化が進む今日、私たちの生活は世界と密接に関係し、この流れはさらに加速していくと予想されます。「次世代を生きる日本の子どもたちに、世界の現状を知り、自分にできることを見つけてチャレンジしてほしい」。ワールド・ビジョン・ジャパン（WVJ）は、このような願いのもと、子どもたちや学生を対象に「グローバル教育」を実施しています。ここでは、その活動の一部をご紹介します。

「きっかけ」を創るグローバル教育

グローバル教育では、スタッフが教育機関を訪問し授業や講演を行う講師派遣や、事務所訪問の受け入れ、小学生向けサマースクール等を開催しています。

「先生や保護者の方々からは“学校や家庭では話題になりにくいけど、考えなければいけない大切なことを教えてくれた”と言っていただくこともあります」と語るのは、グローバル教育を担当する松本謡子スタッフ。「同じ世界に住む同世代の子どもの現状を伝えることで、日本の子どもたちが“自分の暮らしは当たり前ではない”と気づき、世界のことを考えるきっかけになれば」と語ります。

2015 年度は、4389 人の子どもたちや若者が、グローバル教育のプログラムに参加しました

髙宮先生。インドの支援地域にて

学びがアクションにつながるように

愛知県の小学校で教える髙宮先生は、2015 年 8 月、WVJ のインドの支援地訪問ツアーに参加され、帰国後に講師派遣を依頼されました。「インドでの経験を、少しでも子どもたちに共有できたらと思いました。子どもたちは水汲み体験に興味津々で、改めて自分の生活が恵まれていると実感したようでした」

小学校を訪問した松本スタッフは、「子どもたちが実感を持って途上国への理解を深められるよう、クイズやゲームを取り入れる等工夫しています。学んだことを次のアクションにつなげられるよう、いつも試行錯誤しています」と語ります。

「問題を知るだけでなく、（中略）初めての体験ができました」
「他校の人との交流もできて楽しかった」等の声が寄せられました

新しい取り組み　ユースプログラム

今年は、中高生を対象とした「ユースプログラム」を新たに開始しました。これは 6 回シリーズで、「貧困」「教育」「紛争・難民」等のテーマについて、ゲームやボランティアワークを体験しながら理解を深めるプログラムです。全プログラムが終了する時、学生たちが、国際協力の問題を「学ぶ側」から「伝える側」へ成長することを目指しています。

初回となった 3月には「貧困」をテーマにしたプログラムを開催。15名の中高生が参加し、学びを深めました。6 回シリーズの途中からでも、1 回だけでも参加できます。ユースプログラムにぜひご参加ください。

ユースプログラム　参加者大募集！

ワークショップとボランティアワークに参加して世界に目を向けてみませんか？
学校や学年を越えて交流し、友達の輪も広がります！

第 1 回：3 月 「貧困」
第 2 回：5 月 「教育」
第 3 回：7 月 「人身取引(人身売買)」
第 4 回：7・8 月「保健・栄養」
第 5 回：9 月 「平和（紛争・難民）」
第 6 回：10 月「水衛生」

※1 回のみでもご参加いただけます。
すべて参加費無料

7月
人身取引（人身売買）
「現代の奴隷制」とも言われる深刻な人権侵害。だまされたり売られたりしている人々がいます

7・8月
保健・栄養
小学生向けイベント「サマースクール」で栄養や子どもの命を守る保健について伝えます

9月
平和（紛争・難民）
紛争がもたらす影響や難民となっている子どもたちの現状を学び、9/21「国際平和デー」に向けてメッセージを発信

10月
水衛生
水と子どもの命のつながりを学び、国際協力イベント「グローバルフェスタ」で水汲み体験コーナーで説明をします

対象：中学生、高校生
会場：ワールド・ビジョン・ジャパン事務所
詳細・お申込みは、ホームページをご覧ください

ワールド・ビジョン　ユースプログラム

支援地域のことをもっと知りたい！

スワジランドの支援と暮らし

現在ワールド･ビジョン･ジャパンでは、22 カ国、51 の地域でチャイルド・スポンサーシップのプログラムを通して支援を実施しています。2016 年 3 月に、この 51 地域のうちの一つであるスワジランドのゲゲ地域へのチャイルド・スポンサーの訪問ツアーを行いました。ツアーの報告とあわせて、ゲゲ地域の課題と支援、人々の暮らしの様子をご紹介します。

❶ゲゲ ADP
❷シェウラ ADP
（ADP＝地域開発プログラム）

アフリカ大陸の南部に位置する内陸国。圧倒的な権限を持つ国王が君臨する王制国家。近年の干ばつによる食料危機と、HIV/ エイズの蔓延、それによる生産者の減少が大きな課題となっています。

SWAZILAND

スワジランドの課題と支援

トイレの利用が普及しています

家畜等も利用する川や池の水を生活用水として利用する人が多く、年間を通じて安全な飲料水を得られる住民の割合は 53%（2014 年）と低い水準です。トイレの普及も遅れているため野外で排泄する人々が多くいます。このため、井戸や水道を設置し、野外排泄のデメリットを地域の人々に説明して、トイレの設置と利用を促してきました。この結果、2014 年には地域の 80%の家庭にトイレができました。トイレの作り方の研修や材料の提供はワールド･ビジョンが行いますが、実際の設置作業は住民自身が行っています。

トイレの前に並ぶ子どもたち

子どもの栄養状態の改善に取り組んでいます

慢性的な栄養不良により、年齢の割に身長が低い子どもの割合は約 40%にのぼります。子どもの栄養状態を改善するために、保護者に対しても、収穫量を増やすための農業技術研修を行ったり、栄養ある食事の重要性を説明する啓発活動を行っています。幼少期の栄養不良はその後の発育にも重大な影響をおよぼすため、子どもの栄養状態の改善は重要な課題です。

支援によって提供された給食

訪問保健カウンセリングを実施

スワジランドは HIV/ エイズの感染率が 26% と世界で最も高く、ゲゲ地域にも母子感染により HIV/ エイズに感染する子どもが多くいます。自宅出産の慣習も根強く、医療サービスが行き届いていません。このため、地域保健員が家庭を訪問し、必要な保健カウンセリングを行っています。訪問カウンセリングを受けて、産前健診の大切さを知り健診を受け、母乳育児を行う母親が増えています。

地域の母子と地域保健員

スワジランド訪問ツアー

支援地域に行って来ました！

20 名のチャイルド・スポンサーがゲゲ地域開発プログラムを訪問しました。飛行機や車両トラブルのため支援地域での滞在時間がわずか一日半と短い訪問となりましたが、支援地域の子どもたちや人々は、笑顔と歌で歓迎してくれました。

たくさんの笑顔に出会えた旅でした

ツアーに参加できたことに感謝！ツアー中のハプニングも含め、すべての経験が宝物となった。新聞広告でワールド･ビジョン･ジャパンに出会いチャイルド･スポンサーになって、気づけば 20 年以上の付き合いになる。でもまさか自分がチャイルドに会いにアフリカを訪れることになろうとは…年明けに 97 歳で旅立った祖母がきっと私の背を押してくれていたのだろう。現地では人々に感謝され、支援していくことの必要性を実感できたことが何より嬉しかった。誰もが少しでも前を向いて暮らせますように。（栗尾さん）

チャイルドに会って、親近感がわきました。手紙を書こうと思います。（菅野さん）

とてもシャイな子でしたが、また会いたいです。成長を見たいです。（二見さん）

経済開発プロジェクト

縫製グループにミシンを支援しています。ツアー参加者も女性たちの製作した洋服を買いました。

保健・栄養プロジェクト

病院のないこの地域に、以前は医師が月 1 回診察に来てくれていましたが、支援によって診療所が出来てからは週 2 回診察が行われるようになりました。

教育プロジェクト

授業で農業と畜産について学ぶために必要な施設等を支援した学校を訪問しました。収穫物で子どもたちの栄養改善にも役立っています。

報告書にはないスワジランド

スワジランドでは、レイプ等の犯罪を防ぐために、女性はお尻のラインが見えるミニスカート等の服の着用を避けることが一般的です。今回のツアーでは、現地スタッフより女性はシャツを腰に巻いたり、ズボンの上からスカートを着用する等の指導を受けました。

ホームページでスワジランドの支援活動とツアーについてお伝えしています。

ワールド・ビジョン　スワジランド

教育が難民となった子どもたちの希望をつなぐ

学ぶ機会を奪われている シリア、南スーダンの子どもたち

家族、友達、慣れ親しんだ家。紛争はこれらに加えて、シリア、南スーダンの多くの子どもたちから、教育を受ける機会を奪っています。紛争勃発から 5 年を経たシリアで、学校に行くことのできない子どもの数は国内で 200 万人、近隣国に逃れたシリア難民の子どもは 70 万人にのぼります。南スーダンでは、国内で 150 万人の子どもが学校に行くことができません。国外へ逃れた難民 76 万人のおよそ 3 分の 2 を占める子どもたちのうち、小学校で学べる子どもは 2 人に 1 人です。

「学校に通えない」が生み出す損失

シリアや南スーダンの、紛争の影響を受けている子どもたち、難民の子どもたちは、学校に通えないことで学びの機会を失うだけでなく、暴力、早婚、児童労働、犯罪、武装勢力への勧誘等のリスクにもさらされます。また、学校教育を受けていない「失われた世代」が生まれることは、社会の不安定化を招き、国の復興の担い手が不足する等、将来にわたり大きな損失となります。

エチオピアの南スーダン難民キャンプで、WVJ の支援によって新設された学校で勉強する南スーダン難民の子どもたち。雨にも風にも負けない校舎で毎日新しいことが学べるのをとても楽しみにしています。WVJ では継続して教育環境の整備を進めます

シリアから逃れ、レバノンの難民キャンプで暮らすマフード君（8 歳）。父親はシリアで銃に撃たれ、母親も怪我をしていて働けません。朝早くから夜遅くまで、15 歳、12 歳の兄と 3 人で、路上でお菓子を売って家計を助けています。学校には行っていません。

シリア、南スーダンの子どもたちに教育を

ワールド・ビジョン・ジャパン（WVJ）は、昨年度、シリアの隣国ヨルダンの北部で、シリア難民の子どもたちと地域のヨルダン人の子どもたち約 2000 人を対象に、補習授業やレクリエーション活動、保護者を対象とした研修を実施しました。また、南スーダン国内とエチオピアの南スーダン難民キャンプでは、学校の校舎建設、教員研修などを行い、子どもたちが学べる安全な環境を整えています。なお、現在は、未来を築く子どもたちに教育の機会を届けるために、夏期募金の協力を呼びかけています。

今、「夏期募金」にご協力いただくと、難民の子どもたちの未来を拓く力となります。ぜひご協力ください。

ワールド・ビジョン　難民支援

シリア危機に関する分科会で議論する柴田スタッフ（中央）

G7 伊勢志摩サミットへ市民の声を！

5 月に開催された G7 伊勢志摩サミットに先立ち、3 月 22 ～ 23 日、京都で「G7 市民社会対話」が行われました。世界約 25 カ国から 100 名以上が集まり、伊勢志摩サミットへ向けた市民社会からの提言を議論し、提言書をG7各国に届けました。ワールド･ビジョンは「保健」「栄養と食料」「シリア危機」「責任あるサプライチェーン」の 4 分野における政策提言に力を入れ、他団体と協働して政策決定者への働きかけを行いました。伊勢志摩サミットは終了しましたが、今後も弱い立場にある子どもたちのための政策が実現するよう、アドボカシーを継続します。

ワールド・ビジョン　アドボカシー

INFORMATION

WV カフェに参加してみませんか？

チャイルド･スポンサー同士が交流できるイベント「WV カフェ」を全国各地で開催しています。支援活動の報告や支援地訪問の体験談を聞くことができます。ご家族ご友人をお誘いあわせのうえ、ぜひお越しください。参加費無料です。参加ご希望の方は事前にホームページ、E メール、お電話にてお申込みください。（締切は開催日の 3 日前です）

今年 2 月に大阪で開催された WV カフェの様子

宮城
日時：6月18日（土）14:00 ～ 16:30
会場：仙台青葉カルチャーセンター 4階 403号
仙台市青葉区一番町 2-3-10
カルチャー仙台ビル
TEL：022-225-2698

福岡
日時：7月15日（金）18:30～20:30
会場：リファレンス 駅東ビル7階 会議室C
福岡市博多区博多駅東 1-16-14
TEL：092-432-0058

神奈川
日時：8月20日（土）14:00 ～ 16:30
会場：横浜市教育会館 3階 第1研修室
横浜市西区紅葉ヶ丘 53 番地
TEL：045-231-0960

静岡
日時：8月27日（土）14:00～16:30
会場：アクトシティ浜松　研修交流センター
（Dゾーン）5階 52研修交流室
静岡県浜松市中区中央 3-9-1
TEL：053-451-1111

茨城
日時：9月3日（土）14:00～16:30
会場：つくば国際会議場 3階 小会議室303
茨城県つくば市竹園 2-20-3
TEL：029-861-0001

イベント情報は随時ホームページ、E メールでご案内いたします。

タイのスポンサーの皆さまへ

タイのチャイルドへの手紙のあて先が変わりました。英語や現地語のお手紙を直接現地へ送られる場合は、今後右記のあて先へお願いします。

World Vision Foundation of Thailand,
P.O.box 888 Lat Phrao Post Office,
Bangkok 10310, Thailand

熊本地震 子どもたちへの支援を継続しています

このたびの熊本地震において、被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。
ワールド・ビジョン・ジャパンは、地震発生後、4 月 17 日から物資支援を開始。被災された方々のニーズに耳を傾けながら、水や食料、衛生用品等を届けました。
4 月 21 日からは益城町総合体育館の避難所内で、熊本 YMCA と協働で、子どもたちが安心して遊べる屋内スペース「プレイルーム」と、屋外の「プレイパーク」を運営。保護者の方からは、「生まれたばかりの子がいて手がかかるので、上の子たちだけでも見てもらえるのはありがたい」等の声をいただきました。
避難生活が長引くにつれ、子どもたちがストレスを溜めやすくなっています。ワールド・ビジョンは引き続き、子どもたちが必要とする支援を見極めつつ活動を進めます。

5 月 5 日には、他団体と協働でこどもの日イベントを開催。不自由な避難生活をおくる子どもたちの歓声が響きました

熊本県益城町にて

世界に思いをはせて VOL.5　事務局長　片山信彦

このコラムを書いているのは 4 月 25 日。目下、熊本地震への支援活動に全力投球中です。東日本大震災から 5 年経っても未だに仮設住宅での生活を余儀なくされている方がおられることを考えると、九州でも復興には時間がかかるかもしれません。一方で、被災地域が比較的限定的なことから、このニュースレターが発行するころには復興が進んでいるかもしれません。気候変動の影響で世界でも自然災害が増えています。その原因は森林伐採や大気の汚染等、人類の生活様式の変化によるものだと言われています。根本には人間の物質的な豊かさや繁栄、贅沢な生活への欲があると思います。人には誰でも欲があり、欲が人としての生存を保つうえで必要な面がありますし（例えば食欲）、成長への原動力になることはあります。しかし過剰な欲望は問題を生みます。問題はいかにこの欲望をコントロールするか。人類は欲望のコントロールの仕方を忘れ、そのために悲惨な結果を招いているのかもしれません。
自然災害を見るたびに、欲望をコントロールして生活や生き方、価値観を再点検しなさい、自分のことばかりでなく隣人のことを考えなさい、と言われているように感じている昨今です。